

## 遊佐共同宣言 農業振興部会 事業計画

### 1. 共同宣言「農業振興部会」の目的

共同宣言の趣旨「地域農業と日本の食料を守り、持続可能な社会と地域を発展させる」の実現に向け、その課題として確認された「持続可能な農業への取組み」を推進するために、課題整理とその対応について遊佐町、庄内みどり農協、生活クラブ生協がそれぞれの立場で連携・協力して取組みを進めます。

### 2. 農業振興部会の役割

農業振興部会は、遊佐町農業の現状を把握し課題を整理するとともに、中核を担う共同開発米部会が描く「ゆめ遊佐プロジェクト」を機軸に、生産者や消費者・行政・研究機関等連携を図りながら、取組みを進めるための推進体制を確立し、「持続可能な農業」の実践に向け実効策を検討します。

### 3. 実施事業内容

#### (1) 農業生産構造の改革

家族農業の価値について研修し再認識した上で、遊佐町に適した営農組織の立上げに向けて、広域型の4集落営農組織を基本に研修・話し合いを行うとともに、共同開発米部会の法人化に向けた学習会を開催します。

効率的な農地利用・耕作放棄地対策としては、新たに農地集積センターを設置し農地集積の方策を検討するとともに、中山間圃場の基盤整備を推進します。

作業受託グループの育成・協業化については、広域型の営農組織（法人）を基本に、受委託や農機の共同利用・共同作業を進めるとともに、大規模経営体・法人等による新規就農者の雇用就農も視野に、産業の創出等受け入れ態勢の整備に向け検討します。

#### (2) 資源循環型農業の推進

減農薬栽培 100%を目標に、生活クラブでの消費拡大を図るほか、遊YOU米の地元販売、輸出も含めた販路拡大を図ります。

資源循環型肥料「遊佐づくし」の利用拡大に向け、3成分栽培での実験を行なうとともに、「資源循環米」として生活クラブでの独自企画に向けた提案を行い、共同開発米の30% 360haを目指します。

BDFや籾殻燃料等によるエネルギーの活用を図るため視察研修を実施し、ハウス園芸等における「モミガライト」活用の可能性について検討します。

品種・農法・乾燥調製・生産工程管理も含めたポスト開発米の開発を行い、消費者との交流活動を基本とした販売促進活動を継続します。

#### (3) 食料自給率向上に向けた主体的生産対策

政策に左右されない主体的生産体制の構築に向け、生産者や消費者・行政・研究機

関等連携を図りながら、プロジェクトを立ち上げ検討を行なうとともに、大豆・飼料用米・加工用米等を中心に提携による持続的な生産と、大豆の連作障害回避、低コスト生産に向けた輪作体系を確立します。

(4) 複合経営の推進と園芸・畜産振興対策

生活クラブデポーにおいて「まるごと遊佐フェア」を開催し、園芸作物・加工品の生産者による販売促進と、秋にはデポー職員・ワーカーズによる産地研修を行い、顔の見える交流活動を基本に連携を深めます。

消費者との連携による新規作物実験や、遊休農地を活用した共同農園の取り組みについて検討を行います。

6次産業の創出に向けたプロジェクトを立ち上げ、加工・直売施設の建設・稼働を目指します。

畜産農家による堆肥を活用した循環型農業の拡大と、空畜舎を利用したリース事業等による畜産振興を図ります。

4. 事業計画期間

平成 26 年度～平成 30 年度の 5 カ年

ただし、事業計画の年次的調整を図るとともに、3年ごとに次期 5 カ年の計画を作成します。